

Letter from Samoa

サモア通信 10th
July.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア到着から7月末で1年が経ちます。毎日スローライフを送っていても過ぎ去ってしまうとあっという間に感じます。今回は1年サモアで過ごして発見した、ありとあらゆる物をシェアする、ちょっと面白いサモアのシェア文化を紹介したいと思います。

○食べ物シェア

物を食べている人と目が合うと「ちょっと食べる？」と必ず聞いてくれます。同僚の先生や家族はもちろん、バスを待っている知らないおばちゃんからも聞かれます。逆に自分が何か食べていると「何食べてるんだ？」と聞かれます。そのときはどんなに腹ペこで全部食べたかったとしても、「ちょっと食べる？」と聞き返します。それがサモアンにとっての当たり前だから。初めは抵抗がありましたが、今となっては食べ物をシェアすることに喜びすら感じるようになりました。

○文房具のシェア

サモアの学校では授業中であろうが、テスト中であろうが、文房具が飛び交っています。黒ペン、鉛筆は90%以上の生徒は持っていますが、消しゴム、赤ペンとなるとクラスの半数は持っていません。はさみ、ホッチキスとなると教員ですら持っていません。「ちょっとペン貸して」と言われて貸すと7割は自然と返ってきますが、3割はこちらから取り返さないと返ってきません。先日は「赤ペン貸して」と言われて貸したら、採点し始めて、5時間後にインクがなくなった状態で返ってきました。「全ての物はみんなの物」という文化を肌で感じながら楽しんでおります。

○その他のシェア

- ・携帯電話 よく電話貸してと言われるます。誰かの携帯が鳴っていたら、とりあえず電話をとってから持ち主を探すことも多々あります。
- ・火 サモアの家庭では火をおこして料理をすることが多くあります。先日は隣人が木の枝を持ってきて、「少し火を分けて」と来ました。
- ・眼鏡 「眼鏡貸して」と言われたときは意味が分かりませんでした。「俺見えなくなっちゃうし、あなたの度数と違うやん！」これは1度しか言われたことはありませんがツッコミどころ満載で本当に面白い感覚だなあと感じました。

○文化を大切にすること

今回はシェアを中心にサモアの文化を紹介しましたが、みなさんがこの状況下だとイライラしますか？すぐに適応できますか？異文化を完全に理解することは難しいと思います。なぜなら自分には日本人としての侍魂が宿っているから。それでもお互いの文化の違いを理解して、尊重する努力は必要だと感じます。ただ、それは日本人同士でも同じこと。相手との違いを理解して、お互いの考えを尊重することでよりよい関係が築けるのではないのでしょうか。サモア人とか日本人という捉え方ではなく、1人の人間として目の前の人の考えを尊重して接していくことが大切なのかなあと感じます。そうすることで、お互い居心地の良い関係を築ける、そんな気がします。みなさんも周りの人の考えを尊重して接することで、さらによりよい人間関係が築けるかもしれませんよ。それでは Fa soifua!!